

Silk TrueLog Explorer 9.0



ヘルプ (for SilkTest)

Micro Focus
575 Anton Blvd., Suite 510
Costa Mesa, CA 92626

Copyright © 2012 Micro Focus. All rights reserved. SilkTest は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます, Copyright © 2012 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

2012-04-11

目次

| | |
|--|-----------|
| 入門 | 4 |
| TrueLog Explorer 概要 | 4 |
| TrueLog Explorer の UI の概要 | 4 |
| ビューア パースペクティブ | 4 |
| メニュー ツリー | 5 |
| ソース ペイン | 6 |
| 情報ペイン | 6 |
| サポート対象のアプリケーション | 6 |
| TrueLog Explorer での作業 | 8 |
| SilkTest Classic で TrueLog を有効にして TrueLog オプションを設定する | 8 |
| TrueLog の制限事項と事前要件 | 8 |
| Setting TrueLog Options | 9 |
| 4Test を使用して TrueLog のオプションを構成する | 10 |
| スクリプトを使用して実行時に TrueLog を切り替える | 10 |
| TrueLog Explorer を使用して結果を表示する | 11 |
| TrueLog Options - Classic Agent ダイアログ ボックス | 11 |
| TrueLog Options - Open Agent ダイアログ ボックス | 14 |
| Silk4J で TrueLog を有効にして TrueLog オプションを設定する | 15 |
| Setting TrueLog Options | 16 |
| Replaying Test Methods from Eclipse | 16 |
| Replaying a Test Method from the Command Line | 17 |
| TrueLog Explorer で TrueLog を開く | 17 |
| TrueLog 内のエラーを検索する | 18 |
| 比較モードを有効にする | 18 |
| 2 つの TrueLog を比較する | 19 |
| TrueLog を閉じる | 19 |
| SilkTest のパフォーマンスの考慮事項 | 19 |
| TrueLog を取り扱う場合のヒント | 19 |
| TrueLog Explorer のカスタマイズ | 21 |
| どのツールバーを表示するかを指定する | 21 |
| ツールバーのコマンド ボタンをカスタマイズする | 21 |

入門

TrueLog Explorer for SilkTest では、テスト スクリプトのデバッグに役立つ強化された機能を提供しています。また、テスト中に発生する予期せぬイベントやエラーの根本原因の分析も可能です。TrueLog Explorer は、テストケースのアクティビティやテスト対象アプリケーションの状態を、グラフィカルにレンダリングして表示します。

TrueLog とは、テストケース アクションやシステム状態の詳細情報をテスト時に記録した履歴ファイルです。SilkTest で、興味のあるアクションやイベントや画像を TrueLog に記録するよう構成します。この情報は、テストを実行したときに収集され、SilkTest で構成した設定を基に選択されます。

テスト実行が終了したら、TrueLog Explorer を使って該当する TrueLog の内容を調査します。

TrueLog Explorer 概要

TrueLog Explorer では以下のことが可能です。


- **重要な情報のキャプチャ** – テストおよびアプリケーションの情報を TrueLog に記録します。
- **スクリーンショットのキャプチャ** – 指定したスクリプト アクションの後のアプリケーションの状態をビットマップでキャプチャします。記憶領域や処理能力を節約したい場合には、スクリーンショットのキャプチャをエラー状況が発生した後だけに限定することができます。
- **TrueLog の比較** – 新しいテスト実行の TrueLog と、アプリケーションが意図したとおりに動いたベースライン テスト実行の TrueLog とを、体系的に比較します。セッションのビットマップを含めることができるため、新しいテスト実行とベースライン テスト実行の差分を簡単に比較できます。
- **4Test スクリプトのエラーと行への直接リンク** – TrueLog Explorer のノードから 4Test コード中の対応する行に直接リンクします。これにより、コード内でエラーなどの問題箇所を検索する作業が簡単になります。

TrueLog Explorer では、記録対象に設定したすべての情報を、多面的に協調させて表示します。

また、TrueLog Explorer は SilkPerformer 負荷テストの結果分析もサポートしています。この機能の詳細については、SilkPerformer のヘルプを参照してください。

TrueLog Explorer の UI の概要

このセクションでは、TrueLog Explorer のインターフェイスの主要な要素について説明します。インターフェイスの要素は、テスト対象のアプリケーションの種類によって異なることに注意してください。

 **注:** Silk TrueLog Explorer は、SilkTest および SilkPerformer に対して作成された TrueLog を両方ともサポートします。SilkTest に対して作成された TrueLog で作業していると、特定のメニュー項目やタブが薄いグレー表示になっていることがあります。これらの要素は、SilkPerformer の TrueLog に対してのみサポートされる機能を提供します。

TrueLog Explorer の UI の主要な領域は、**メニュー ツリー**、**ソース ペイン**、および **情報 ペイン** の 3 つです。

ビューア パースペクティブ

ビューア パースペクティブをサポートするのは、TrueLog Explorer で利用できるバージョンの SilkTest のみです。ビューア パースペクティブでは、すべての TrueLog Explorer ビューのコンテキスト メニュー コマンドの一部のみが有効になっており、ワークフロー バーは無効になっています。このパースペクティブの目的は、スクリプトをカスタマイズしないユーザー向けの簡易ビューを提供することと、スクリプ

トのカスタマイズを利用できない TrueLog タイプをサポートすることです。SilkTest のテストは、デフォルトではビューア パースペクティブ TrueLog を生成します。

(SilkPerformer TrueLog タイプで利用できる) エクスプローラ パースペクティブには、TrueLog Explorer が提供するすべてのスクリプト カスタマイズ機能とワークフロー バーが備わっています。エクスプローラ パースペクティブを利用できる TrueLog タイプの場合は、エクスプローラ パースペクティブとビューア パースペクティブを交互に切り替えることができます。

メニュー ツリー

TrueLog ファイルを開いたら、インターフェイスの左側にあるメニュー ツリーで、テストケースの実行時に保存された TrueLog データを展開または折りたたみできます。ここには、開いている各 TrueLog ファイルが表示され、取得されたすべての情報へのリンクが含まれています。表示される情報は、SilkTest TrueLog のオプションの選択に応じて構成されます。

TrueLog を選択せずに TrueLog Explorer を起動した場合、"最初に TrueLog をロードします。" というメッセージが表示されます。

メニュー ツリーには、ノードの階層構造が表示されます。ノードは、TrueLog に含まれるスクリプトやテストケースに対応して存在します。テストケース ノード内の子ノードは、テストケースによって実行されるスクリプト化された各アクション (ボタンのクリック、テキストの入力など) に対応して存在します。また、ノードは、テストケースの実行中にアクティブになったすべてのウィンドウに対応して存在します。


メニュー ツリーに表示されるノードには、以下の項目があります。

- TrueLog ファイル (開いている各 TrueLog ファイルに対して 1 つのノードが存在します)。
- ルート (実行ノード)。
- テスト計画 (存在する場合)。
- スクリプト。
- テストケース。
- アクティブ ウィンドウ。SilkTest Classic と Classic Agent を使用している場合にのみ表示されます。
- アクション (ユーザーが選択したスクリプト アクション)。SilkTest Classic と Classic Agent を使用している場合にのみ表示されます。

TrueLog 内の各アクティブ ウィンドウまたは各アクション ノードには、ウィンドウがアクティブになったとき、またはアクションが発生したときに存在した GUI コントロール (と実際の値) のリストやスクリーンショットが含まれることがあります。ノードをクリックすると、そのコンテンツが **ソース** ペインに、履歴の詳細が **情報** ペインに表示されます。サブフォルダの展開または折りたたみを行う場合は、メニュー ツリーのノードをダブルクリックします。ノードを選択して下向き矢印 ([TrueLog のステップ スルー]) を押すと、すべてのテスト内のアクションを順番に移動できます。それを行うと、他の 2 つのビューに、選択されたアクションに関連する情報が表示されます。

たとえば、SilkTest Classic と Classic Agent を使用して Web アプリケーションの TrueLog を表示する場合に、メニュー ツリーでノードを選択すると、そのアプリケーションのスクリーンショット (テスト実行時のその時点で表示されたコンテンツ) が **ソース** ペインに表示されます。その時点で取得された Web アプリケーションのプロパティが、**情報** ペインに表示されます。

アクション ノードをクリックすると、**情報** ペインの **コントロール** タブ内と **ソース** ペインの **アクションの前** タブ内でコントロールが強調表示されます。

 **注:** 4Test の場合のメニュー ツリーに表示される情報に関する留意事項を以下に示します。

- スクリプトに Main 関数が含まれている場合、Main 関数内にあるスクリプト アクションはスクリプト ノード内に表示されます。
- 状態復元呼び出しは、アプリケーション状態ノードとして表示されます。
- 4Test テスト スクリプト内の要素には、それらに関連付けられた特定のアクションを持たないものがあります。それらの要素に対してメニュー ツリーにノードが作成されます。ノードのタイプは、テスト スクリプトの最初のアクションによって異なります。

- ブラウザのテストの場合、各ドキュメント完了イベントに対して、TrueLog にウィンドウ アクティブ ノードが作成されます。

ソース ペイン

TrueLog Explorer は、受信したデータに対して複数のビューを提供します。TrueLog Explorer の上部に表示される **ソース ペイン**には、メニュー ツリーで選択されたノードのコンテンツが表示されます。SilkTest に関連する情報を含まないソース ペイン ビューは非アクティブになります。

ビットマップを取得するように TrueLog Explorer を構成した場合、各アクションが発生するたびに **ソース ペイン**にウィンドウ (またはデスクトップ) のスクリーンショットが表示されます。このビューには、アクションの前の画像を表示する **アクションの前** タブと、結果の画像を表示する **アクションの後** タブがあります。

アクションの前 このビューには、SilkTest がテストケース内の各アクションを実行する直前に取得されたスクリーンショットが表示されます。テストケースの実行中にビットマップが記録されるように指定するには、SilkTest Classic の **TrueLog Options** ダイアログ ボックス、または Silk4J の **スクリプト オプション** ダイアログ ボックスにある **TrueLog** タブを使用します。SilkTest Classic と Classic Agent を使用している場合には、**アクションの前** ビューのスクリーンショット内のコントロールをクリックすると、**コントロール** ビューでそのコントロールが強調表示されます。逆に、コントロール ビュー内のコントロールをクリックすると、アクションの前 ビューのスクリーンショット内のコントロールが強調表示されます。

アクションの後 このビューには、SilkTest がテストケース内の各アクションを実行した直後に取得されたスクリーンショットが表示されます。これらのビットマップは、(SilkTest の **TrueLog Options** ダイアログ ボックスを使用して) ビットマップを記録するように指定した場合に、テストケースの実行中に記録されます。

情報ペイン

情報 ペインは、TrueLog Explorer の下部に表示されるパネルです。テストケースの実行中に取得されたデータが表示されます。**ソース ペイン**と同様に、**情報** ペインは、テスト対象のアプリケーションによって異なるビューを表示します。SilkTest に関連する情報を含まないビューは非アクティブになります。

情報 開いている TrueLog ファイルおよび選択されている API ノードの全般的な情報。SilkTest ファイル名、時間、および完了ステータス (深深度、時間、説明などを含む) を含んでいます。

呼び出し履歴 現在の呼び出しの呼び出し履歴情報。このページのコードの行をクリックすると、SilkTest が開いていない場合は開かれます。4Test コードを使用している場合、SilkTest が開き、テストケース内の対応する行が表示されます。

コントロール このビューは SilkTest Classic と Classic Agent に対してのみ利用可能です。このビューでは、記録されたコントロールについての情報 (SilkTest の **TrueLog Options** ダイアログ ボックスを使用して構成できます)が表示されます。この情報には、各コントロールの名前、値、およびタイプと、以下の情報が 1 つ以上含まれています。

- CID - コントロール ID 値
- PID - 親 ID 値
- TL - ウィンドウの左上からの距離 (ピクセル単位)。
- BR - ウィンドウの右下からの距離 (ピクセル単位)。

サポート対象のアプリケーション

SilkTest Classic と Classic Agent を使用している場合、SilkTest に対して TrueLog Explorer を使用して、次の種類のアプリケーションのテスト データを記録することができます。

- クライアント/サーバー アプリケーション

- Web アプリケーション
- Java アプリケーション (Windows やブラウザをベースとしたアプリケーションやアプレット)
- .NET アプリケーション (Windows やブラウザをベースとしたアプリケーション)

SilkTest Classic と Open Agent、または Silk4J を使用している場合、SilkTest に対して TrueLog Explorer を使用して、すべての種類のサポートするアプリケーション のテスト データを記録することができます。

TrueLog Explorer での作業

このセクションでは、TrueLog Explorer を使用して、TrueLog ファイルを取り扱う方法について説明します。TrueLog は、視覚的検証を使用して失敗したテストケースの根本原因分析を容易にする強力な技術です。

テスト実行の結果は、TrueLog Explorer で調査できます。

SilkTest Classic と Classic Agent で作業している場合、テスト実行時にエラーが発生したときに TrueLog Explorer を使用すると、エラーが生成された 4Test スクリプト内の行を簡単に見つけられます。これを行うには、エラーに関連付けられた TrueLog アクション ノードをクリックします。SilkTest にスクリプトファイルが表示され、問題を検討できるようにスクリプト内の該当する行にジャンプします。

比較モードを使用すると、TrueLog を並べて比較できます。また、比較対象の TrueLog をノードごとに対応させて移動する機能が有効になります。これは、同じテスト スクリプトから生成された別個のテスト実行の結果を比較する場合に役に立ちます。


SilkTest Classic で TrueLog を有効にして TrueLog オプションを設定する

TrueLog Explorer を使用して TrueLog の生成およびそのコンテンツの表示を行う前に、SilkTest クライアントで TrueLog を有効にする必要があります。

TrueLog Explorer を有効化または無効化することができます：

- すべてのテスト ケースに対して、**TrueLog Options** ダイアログ ボックスを使用して。
- 特定のテスト ケースを実行するときに **Run Testcase** ダイアログ ボックスを使用して。
- 実行時にテスト スクリプトを使用して。

Run Testcase ダイアログ ボックスで TrueLog Explorer を有効化または無効化すると、SilkTest Classic は **TrueLog Options** ダイアログ ボックスに対して同じ変更を加えます。同様に、**TrueLog Options** ダイアログ ボックスで TrueLog Explorer を有効化または無効化すると、SilkTest Classic は **Run Testcase** ダイアログ ボックスに対して同じ変更を加えます。

 **注:** デフォルトでは、Open Agent を使用している場合は TrueLog Explorer は有効化され、Classic Agent を使用している場合は無効化されています。TrueLog Explorer が有効化されている場合のデフォルトの設定は、スクリプトでエラーが発生した場合にのみスクリーンショットが作成され、エラーのあるテスト ケースのみが記録されます。

TrueLog の制限事項と事前要件

SilkTest Classic で TrueLog を使用している場合、次の制限事項と事前要件が適用されます。

| | |
|-------------------------|--|
| リモート エージェント | リモート エージェントを使用している場合、TrueLog ファイルもリモート マシン上に出力されます。 |
| スイート | スイートの実行時には TrueLog はサポートされません。 |
| 混合エージェント スクリプト | 混合エージェント スクリプト (両方のエージェントを使用するスクリプト) の実行時には TrueLog はサポートされません。 |
| マルチ エージェント スクリプト | TrueLog は、単一のローカルまたはリモート エージェントで実行するスクリプトでのみサポートされます。リモート エージェントを使用している場合、TrueLog ファイルもリモート マシン上に出力されます。 |

- Open Agent スクリプト** Open Agent スクリプトで TrueLog Explorer を使用するには、ツールバー上でデフォルト エージェントを Open Agent に設定します。
- Classic Agent スクリプト** Classic Agent スクリプトで TrueLog Explorer を使用するには、ツールバー上でデフォルト エージェントを Classic Agent に設定します。

Setting TrueLog Options

Use the TrueLog options to enable TrueLog and to customize the test result information that the TrueLog collects.

Logging bitmaps and controls in a TrueLog may adversely affect performance. Because capturing bitmaps and logging information can result in large TrueLog files, you may want to log test cases with errors only and then adjust the TrueLog options for test cases where more information is needed.

1. Click **Options > TrueLog** to open the **TrueLog Options** dialog box.
2. To capture TrueLog data and activate logging settings, check the **Enable TrueLog** check box and then choose to capture data for:

All Testcases Logs activity for all test cases, both successful and failed. This setting may result in large TrueLog files.

Testcases with errors Logs activity only for test cases with errors. This is the default setting.

3. In the **TrueLog File** field, specify the location and name of the TrueLog file.

This path is relative to the machine on which the SilkTest Classic Agent is running. The name defaults to the name used for the results file, with an .xlg extension. The location defaults to the same folder as the test case .res file.



注: If you provide a local or remote path in this field, the path cannot be validated until script execution time.

4. Only when you are using the Classic Agent, choose one of the following to set pre-determined logging levels in the **TrueLog Presets** section:

Minimal Enables bitmap capture of desktop on error; does not log any actions.

Default Enables bitmap capture of window on error; logs data for Select and SetText actions; enables bitmap capture for Select and SetText actions.

Full Logs all control information; logs all events for browsers except for MouseMove events; enables bitmap capture of the window on error; captures bitmaps for all actions.

If you enable Full logs and encounter a Window Not Found error, you may need to manually edit your script.

5. Only when you are using the Classic Agent, in the **Log the following for controls** section, specify the types of information about the controls on the active window or page to log.
6. Only when you are using the Classic Agent, in the **Log the following for browsers** section, specify the browser events that you want to capture.
7. Specify the amount of time you want to allow Windows to draw the application window before a bitmap is taken.
 - When you are using the Classic Agent, specify the delay in the **TrueLog Delay** field.
 - When you are using the Open Agent, specify the delay in the **Delay** field in the **Screenshot mode** section.

The delay can be used for browser testing. You can insert a Browser.WaitForReady call in your script to ensure that the DocumentComplete events are seen and processed. If WindowActive

nodes are missing from the TrueLog, you need to add a `Browser.WaitForReady` call. You can also use the delay to optimize script performance. Set the delay as small as possible to get the correct behavior and have the smallest impact on script execution time. The default setting is 0.

8. To capture screenshots of the application under test:

- When you are using the Classic Agent, check the **Enable Bitmap Capture** check box and then choose to capture bitmaps.
- When you are using the Open Agent, determine how SilkTest Classic captures screenshots in the **Screenshot mode** section.

9. Only when you are using the Classic Agent, click the **Action Settings** tab to select the scripted actions you want to include in the TrueLog.

When enabled, these actions appear as nodes in the Tree List view of the TrueLog.

10 Only when you are using the Classic Agent, in the **Select Actions to Log** section, check the **Enable** check box to include the corresponding 4Test action in the log. Each action corresponds to a 4Test method, except for Click and Select.

11 Only when you are using the Classic Agent, in the **Select Actions to Log** section, from the **Bitmap** list box, select the point in time that you want bitmaps to be captured.

12 Click **OK**.

4Test を使用して TrueLog のオプションを構成する

この機能は Classic Agent を使用するスクリプトでのみサポートされます。

TrueLog のオプションは **TrueLog Options** ダイアログ ボックスを使用して設定することをお勧めしますが、テストケース内で `OPT_TRUELOG` エージェント オプションおよび `TRUELOGOPTIONS` レコードタイプを使用して操作することもできます。

`Agent.SetOption`、`Agent.GetOption()`、および `BindAgentOption()` の使用方法については、SilkTest のヘルプを参照してください。

1. テストケース内で `truelog.inc` を呼び出します。
2. 特定のオプションの値を設定します。
ビットマップを有効にする例を次に示します。

```
[ ] use "truelog.inc"
[ ]
[ ] TRUELOGOPTIONS  rTLOpts
[ ] TRUELOGOPTIONS  rOldTLOpts
[ ]
[-] testcase TestTrueLogOptions () appstate none
[ ] rTLOpts = Agent.GetOption (OPT_TRUELOG)
[ ] print (rTLOpts)          //print the original TrueLog options
[ ] rTLOpts.iActionSetText = TL_ACTION_ENABLE_BEFORE_BITMAPS
[ ] rTLOpts.iActionSelect = TL_ACTION_ENABLE_BOTH_BITMAPS
[ ] rOldTLOpts = Agent.SetOption (OPT_TRUELOG, rTLOpts)
[ ] print (rTLOpts)          // print the new TrueLog options
```

3. **File > Save** を選択します。

スクリプトを使用して実行時に TrueLog を切り替える

TrueLog Explorer を実行時に切り替えて、テスト結果ファイルを分析したり、各アクションの前後のスクリーンショットをキャプチャしたり、エラーが発生したときにスクリーンショットをキャプチャすることができます。

テストスクリプトを使用して、テストケースの実行中に TrueLog Explorer を何回でも切り替えることができます。たとえば、複数のユーザー インターフェイスのメニューをテストするテストケースを実行して

いる場合、スクリプトの実行中に TrueLog のオン/オフを何度も行って、メニュー部分だけのビットマップをキャプチャさせることができます。

1. TrueLog Explorer オプションを設定することで、TrueLog Explorer をキャプチャしたいタイミングを定義できます。
2. 変更したいスクリプトを作成または開きます。
3. スクリプト内のオンまたはオフにしたい場所に移動します。
4. TrueLog をオフにするには、次のように入力します： `SetOption(OPT_PAUSE_TRUELOG, TRUE)`。
5. TrueLog をオンにするには、次のように入力します： `SetOption(OPT_PAUSE_TRUELOG, FALSE)`。
6. **File > Save** をクリックして、スクリプトを保存します。

TrueLog Explorer を使用して結果を表示する

TrueLog Explorer を使用して、テスト結果ファイルを分析したり、各アクションの前後やエラーが発生したときのスクリーンショットをキャプチャすることができます。

1. TrueLog Explorer オプションを設定します。
2. テストケースを実行します。
3. 次のいずれか 1 つを選んでください：
 - **Results > Launch TrueLog Explorer** をクリックします。
 - **Basic Workflow** または **Data Driven Workflow** バーの **Explore Results** ボタンをクリックします。
4. **Results Files** ダイアログ ボックスで、表示したファイル名に移動して **Open** をクリックします。

デフォルトでは、結果ファイルは実行したスクリプト、スイート、テスト計画と同じ名前になります。


TrueLog Explorer でファイルを分析するには、.xlg ファイルを開きます。SilkTest Classic で SilkTest Classic 結果ファイルを分析するには、.res ファイルを開きます。

TrueLog Options - Classic Agent ダイアログ ボックス

TrueLog Options - Classic Agent ダイアログ ボックスを使用して、TrueLog を Classic Agent に対して有効化したり、SilkTest Classic に対して TrueLog が収集する情報をカスタマイズします。

Options > TrueLog をクリックします。

ビットマップやコントロールを TrueLog で記録すると、SilkTest Classic のパフォーマンスに悪影響を及ぼすことがあります。ビットマップの取得や情報の記録を行うと TrueLog ファイルが大きくなることがあるので、エラーとなったテストケースのみを記録し、より情報が必要なテストケースに対して TrueLog オプションを調整したい場合があります。

 **注:** デフォルトでは、Open Agent を使用している場合は TrueLog Explorer は有効化され、Classic Agent を使用している場合は無効化されています。TrueLog Explorer が有効化されている場合のデフォルトの設定は、スクリプトでエラーが発生した場合にのみスクリーンショットが作成され、エラーのあるテストケースのみが記録されます。

For additional information about TrueLog Explorer, refer to the *Silk TrueLog Explorer User Guide*, located in **Start > Programs > Silk > SilkTest > Documentation**.

Logging Settings タブ

TrueLog のキャプチャを有効化し、TrueLog を設定します。


| | |
|-----------------------|--|
| Enable TrueLog | TrueLog データをキャプチャし、ログ設定を有効化します。テストケースを実行するときに Run Testcase ダイアログ ボックスのチェック ボックスを切り替えて、TrueLog の有効化/無効化を変更することもできます。 Run Testcase ダイアログ ボ |
|-----------------------|--|

ックスで TrueLog を有効化または無効化すると、SilkTest Classic は **TrueLog Options** ダイアログ ボックスに対して同じ変更を加えます。同様に、**TrueLog Options** ダイアログ ボックスで TrueLog を有効化または無効化すると、SilkTest Classic は **Run Testcase** ダイアログ ボックスに対して同じ変更を加えます。

All testcases 成功および失敗にかかわらずすべてのテストケースのアクティビティを記録します。この設定にすると、TrueLog ファイルが大きくなる可能性があります。

Testcases with errors エラーのあるテストケースのアクティビティのみを記録します。これは、TrueLog ファイルのサイズが制限されるので推奨される設定です。デフォルトで選択されています。

TrueLog file TrueLog ファイルの場所と名前を設定します。このパスは、エージェントが実行しているマシン上での相対パスです。デフォルトの名前は、結果ファイルに使用した名前に .xlg 拡張子を付けたものになります。デフォルトの場所はテストケースの .res ファイルと同じフォルダになります。

 **注:** このフィールドにローカルまたはリモート パスを入力した場合、そのパスはスクリプトが実行されるまで検証されません。

Log the following for controls アクティブなウィンドウまたはページのコントロールについての特定の種類の情報を記録します。

Control information アクティブなウィンドウまたはページに対する GUI コントロールの階層、名前、種類、およびその他の属性を記録します。この情報は、TrueLog Explorer の **情報** ウィンドウの **コントロール** タブに表示されます。TrueLog を有効化したとき、これはデフォルトで選択されています。コントロールの情報を記録する場合、次の記録する内容を選択することができます。

Control creation/deletion アクティブ ウィンドウまたはページでのコントロールの作成/削除を追跡します。TrueLog は、各アクションの後にコントロールの階層を更新します。このオプションを選択すると、パフォーマンスに悪影響を及ぼすことがあります。

Include static text controls 記録される階層に静的テキスト コントロールを含めます。TrueLog のサイズを小さくするために、ブラウザのテストでは、このオプションを無効にしておきます。

Track low level events キーボードおよびマウス イベントを記録します。マウスのクリックやキーの押し下げのたびに、新しい **アクション** ノードが TrueLog の ツリー リストに作成されます。ブラウザ アプリケーションに対してこのオプションを選択する際には、パフォーマンスに重大な影響を与える可能性があることにご注意ください。

Log the following for browsers キャプチャしたいブラウザ イベントを識別します。

Download events ページのダウンロードをトリガするすべてのイベントを取得します。デフォルトで選択されています。

Navigate events 新しいページを表示するすべてのイベントを取得します。デフォルトで選択されています。

Terminate events ブラウザを閉じるすべてのイベントを取得します。デフォルトで選択されています。

New window events 新しいブラウザ ウィンドウを表示するすべてのイベントを取得します。デフォルトで選択されています。

MouseMove calls スクリプト化されたすべての MouseMove 呼び出しを記録します。これは、JavaScript の MouseOver イベントを追跡する場合に便利です。この情報を TrueLog に含めると、パフォーマンスに重大な影響を与えることがあります。この情報は、ツリー リストに **アクション** ノードとして表示されます。

TrueLog delay

ビットマップを取得する前にアプリケーション ウィンドウを描画する時間を Windows に与えます。遅延時間は、ブラウザ テストで使用できます。Browser.WaitForReady 呼び出しをスクリプトに挿入すると、DocumentComplete イベントが発生し、処理されたことを保証できます。TrueLog に **WindowActive** ノードが存在しない場合は、Browser.WaitForReady 呼び出しを追加する必要があります。また、スクリプトのパフォーマンスを最適化するために TrueLog Delay (遅延時間) を使用することもできます。スクリプトの実行時間への影響を最小限にし、正しく動作させるためには、遅延時間をできるだけ短く設定します。デフォルト設定は 0 です。

Enable bitmap capture

テスト対象アプリケーションの再生中に TrueLog がテスト アプリケーションのスクリーンショットをキャプチャするタイミングを制御します。ビットマップ ファイルは、TrueLog (.xlg) ファイルに格納されます。デフォルトで選択されています。

As specified on action settings tab **Action Settings** タブで選択したアクションの種類それぞれに対してビットマップのキャプチャを有効化します。また、この設定は、アプリケーションでウィンドウがアクティブになるたびにビットマップをキャプチャします。デフォルトで選択されています。

On error テスト ケースでエラーが発生した場合にビットマップを取得します。

Window only アクティブ ウィンドウのビットマップを保存します。

Desktop デスクトップ全体のビットマップを保存します。

Before error bitmap エラーが発生する前のビットマップを取得します。

TrueLog Presets

事前定義されたログ レベルに設定します。

Minimal エラーのあるテストケースを記録し、エラー時にデスクトップのビットマップ取得を有効にします。アクションは記録しません。

Default エラーのあるテストケースを記録し、エラー時にウィンドウのビットマップ取得を有効にします。Select アクションおよび SetText アクションのデータを記録し、この 2 つのアクションのビットマップ取得を有効にします。

Full すべてのテストケースを記録し、すべてのコントロール情報を記録します。また、MouseMove イベントを除くブラウザのすべてのイベントを記録し、エラー時にウィンドウのビットマップ取得を有効にします。すべてのアクションのビットマップを取得します。

Full ログを有効化すると、ウィンドウが見つかりません エラーが発生し、スクリプトを手動で編集することが必要になる場合があります。

Action Settings タブ

TrueLog Options - Classic Agent ダイアログ ボックスの **Action Settings** タブでは、TrueLog に記録したいスクリプト化されたアクションを選択します。有効にすると、これらのアクションは、TrueLog のツリー リストにノードとして表示されます。

Select actions to log

- Enable** 記録するアクションを選択します。各アクションは、Click と Select を除き、4Test メソッドに対応しています。
- Click** PushButton、ScrollBar、TextField、HtmlLink などの多くのコントロールに対するマウス クリックを記録します。CheckBox の Click メソッドを記録するには、Click ではなく Select を選択します。
- Select** ListBox、TreeView、ComboBox、RadioButton、CheckBox などの複数種類のコントロールの複数のメソッドのアクションを記録します。以下に、Select によって記録されるアクションの一部を示します。
- **Select (ListBox、TreeView、ComboBox、RadioButton)**
 - **DoubleSelect、SelectList、SelectRange (ListBox、TreeView)**
 - **Click (ListBox、TreeView、ComboBox、RadioButton、CheckBox)**
 - **Check、Uncheck、Toggle、SetState (CheckBox)**
- Bitmap** ビットマップをキャプチャするタイミングを選択します。
- None** ビットマップをキャプチャしません。
- Before** エラーが発生する前のビットマップをキャプチャします。
- After** エラーが発生した後のビットマップをキャプチャします。
- Both** エラーが発生する前と後のビットマップをキャプチャします。

TrueLog Options - Open Agent ダイアログ ボックス

TrueLog Options - Open Agent ダイアログ ボックスを使用して、TrueLog を Open Agent に対して有効化したり、SilkTest Classic に対して TrueLog が収集する情報をカスタマイズします。

Options > TrueLog をクリックします。

さらに、**差分ビューア** を使用して、Open Agent を使用するテスト ケースの結果を分析することもできます。

ビットマップやコントロールを TrueLog で記録すると、SilkTest Classic のパフォーマンスに悪影響を及ぼすことがあります。ビットマップの取得や情報の記録を行うと TrueLog ファイルが大きくなることがあるので、エラーとなったテストケースのみを記録し、より情報が必要なテスト ケースに対して TrueLog オプションを調整したい場合があります。



注: デフォルトでは、Open Agent を使用している場合は TrueLog Explorer は有効化され、Classic Agent を使用している場合は無効化されています。TrueLog Explorer が有効化されている場合のデフォルトの設定は、スクリプトでエラーが発生した場合にのみスクリーンショットが作成され、エラーのあるテストケースのみが記録されます。

For additional information about TrueLog Explorer, refer to the *Silk TrueLog Explorer User Guide*, located in **Start > Programs > Silk > SilkTest > Documentation**.


Enable TrueLog

TrueLog データをキャプチャし、ログ設定を有効化します。テスト ケースを実行するときに **Run Testcase** ダイアログ ボックスのチェック ボックスを切り替えて、TrueLog の有効化/無効化を変更することもできます。 **Run Testcase** ダイアログ ボックスで


TrueLog を有効化または無効化すると、SilkTest Classic は **TrueLog Options** ダイアログ ボックスに対して同じ変更を加えます。同様に、**TrueLog Options** ダイアログ ボックスで TrueLog を有効化または無効化すると、SilkTest Classic は **Run Testcase** ダイアログ ボックスに対して同じ変更を加えます。

| | |
|------------------------------|--|
| All testcases | 成功および失敗にかかわらずすべてのテストケースのアクティビティを記録します。この設定にすると、TrueLog ファイルが大きくなることがあります。 |
| Testcases with errors | エラーのあるテストケースのアクティビティのみを記録します。これは、TrueLog ファイルのサイズが制限されるので推奨される設定です。デフォルトで選択されています。 |

TrueLog file TrueLog ファイルの場所と名前を設定します。このパスは、エージェントが実行しているマシン上での相対パスです。デフォルトの名前は、結果ファイルに使用した名前に .xlg 拡張子を付けたものになります。デフォルトの場所はテストケースの .res ファイルと同じフォルダになります。

 **注:** このフィールドにローカルまたはリモートパスを入力した場合、そのパスはスクリプトが実行されるまで検証されません。

Screenshot mode テスト対象アプリケーションの再生中に TrueLog Explorer がテスト アプリケーションの画面をキャプチャするタイミングを制御します。ビットマップ ファイルは、TrueLog (.xlg) ファイルに格納されます。

 **注:** テストケースにエラーがある場合は、選択したスクリーンショットモードに依存せずに TrueLog Explorer は常に画面をキャプチャします。


| | |
|---------------------------|--|
| None | 再生中に画面をキャプチャしません。 |
| Active Window | 再生中にテスト アプリケーションのアクティブなウィンドウのみをキャプチャします。 |
| Active Application | テスト アプリケーションとテスト アプリケーション内のすべてのウィンドウをキャプチャします。 |
| Desktop | デスクトップ領域全体をキャプチャします。 |

Delay ビットマップを取得する前にアプリケーション ウィンドウを描画する時間を Windows に与えます。また、スクリプトのパフォーマンスを最適化するために Delay (遅延時間) を使用することもできます。スクリプトの実行時間への影響を最小限にし、正しく動作させるためには、遅延時間をできるだけ短く設定します。デフォルト設定は 0 です。

Silk4J で TrueLog を有効にして TrueLog オプションを設定する

TrueLog Explorer を使用して TrueLog の生成およびそのコンテンツの表示を行う前に、SilkTest クライアントで TrueLog を有効にする必要があります。さらに、Silk4J テストとしてテストケースを実行する必要があります。

Silk4J で作業している場合は、**スクリプト オプション** ダイアログ ボックスの **TrueLog** タブで、TrueLog Explorer を有効化または無効化できます。

 **注:** Silk4J を使用している場合、デフォルトで TrueLog Explorer は有効化されています。


Setting TrueLog Options

Enable TrueLogs to capture bitmaps and to log information for Silk4J.

Logging bitmaps and controls in TrueLogs may adversely affect the performance of Silk4J. Because capturing bitmaps and logging information can result in large TrueLog files, you may want to log test cases with errors only and then adjust the TrueLog options for test cases where more information is needed.

The results of test runs can be examined in TrueLog Explorer. For additional information about TrueLog Explorer, refer to the *Silk TrueLog Explorer User Guide*, located in **Start > Programs > Silk > SilkTest > Documentation**.

To enable TrueLog and customize the information that the TrueLog collects for Silk4J, perform the following steps:

1. Click the drop-down arrow next to the SilkTest toolbar icon  and choose **Edit Options**. The **Script Options** dialog box opens.
2. Click the **TrueLog** tab.
3. In the **Logging** area, check the **Enable TrueLog** check box.
 - Click **All testcases** to log activity for all test cases, both successful and failed. This setting may result in large TrueLog files.
 - Click **Testcases with errors** to log activity for only those test cases with errors. This is the default setting, as it limits the size of TrueLog files.
4. In the **TrueLog file** field, type the path to and name of the TrueLog file, or click **Browse** and select the file.

This path is relative to the machine on which the agent is running. The default path is the path of the Silk4J project folder, and the default name is the name of the suite class, with a .xlg suffix.



注: If you provide a local or remote path in this field, the path cannot be validated until script execution time.

5. Select the **Screenshot mode**.
6. *Optional:* Set the **Delay**.

This delay gives Windows time to draw the application window before a bitmap is taken. You can try to add a delay if your application is not drawn properly in the captured bitmaps.
7. Click **OK**.

Replaying Test Methods from Eclipse

1. Navigate to the test method that you want to test.
2. Perform one of the following steps:
 - Right-click a package name in the Package Explorer to replay all test methods in the project.
 - Right-click a class name in the Package Explorer to replay all test methods in the class. Or, alternatively, open the class in the source editor and right-click in the source editor.
 - Right-click a method name in the Package Explorer to replay a test for only that method. Or, alternatively, open the class in the source editor and select a test method by clicking its name.
3. Choose **Run As > Silk4J Test**. The test results display in the JUnit view as the test runs. If all tests pass, the status bar is green. If one or more tests fail, the status bar is red. You can click a failed test to display the stack trace in the Failure Trace area.

4. When the test execution is complete, the **Playback Complete** dialog box opens. Click **Explore Results** to review the TrueLog for the completed test.

Replaying a Test Method from the Command Line

You must update the PATH variable to reference your JDK location before performing this task. For details, reference the Sun documentation at: <http://java.sun.com/j2se/1.5.0/install-windows.html>.

1. Set the CLASSPATH to:

```
set CLASSPATH=<eclipse_install_directory>%plugins%org.junit4_4.3.1%junit.jar;  
%OPEN_AGENT_HOME%¥JTF¥silktest-jtf-nodeps.jar;C:¥myproject¥
```

2. Run the JUnit test method by typing:

```
java org.junit.runner.JUnitCore <test class name>
```



注: For troubleshooting information, reference the JUnit documentation at: http://junit.sourceforge.net/doc/faq/faq.htm#running_1.

3. To run several test classes with Silk4J and to create a TrueLog, use the SilkTestSuite class to run the Silk4J tests.

For example, to run the two classes *MyTestClass1* and *MyTestClass2* with TrueLog enabled, type the following code into your script:

```
package demo;  
import org.junit.runner.RunWith;  
import org.junit.runners.Suite.SuiteClasses;  
import com.borland.silktest.jtf.SilkTestSuite;  
  
@RunWith(SilkTestSuite.class)  
@SuiteClasses({ MyTestClass1.class, MyTestClass2.class })  
public class MyTestSuite {}
```

To run these test classes from the command line, type the following:

```
java org.junit.runner.JUnitCore demo.MyTestSuite
```

TrueLog Explorer で TrueLog を開く

デフォルトでは、TrueLog は他の SilkTest テスト結果 (.res) ファイルと同じディレクトリに保存されます。ただし、TrueLog の .xlg ファイルに対して、新しい場所を指定できます。

TrueLog は他の SilkTest 結果ファイル (たとえば、test1.res、test1.xlg など) と同じベース ファイル名を共有しますが、接尾部は .xlg になります。


1. **スタート > プログラム > Silk > SilkTest > 分析ツール > Silk TrueLog Explorer** を選択します。
2. **ファイル > TrueLog の追加** または **ファイル > TrueLog On Error ファイルの追加** を選択します。**ファイルを開く** ダイアログ ボックスが開き、指定したファイルの種類が **ファイルの種類** リスト ボックスで選択されます。
3. 該当するテストのディレクトリに移動し、調査対象のファイルを選択します。
4. 省略可能: **比較ビューで開く** チェック ボックスをオンにすると、ファイルは比較ビューで開きます。
5. **OK** をクリックします。



注: 複数の TrueLog を TrueLog Explorer で同時に開くこともできます。

TrueLog 内のエラーを検索する


TrueLog Explorer を使用すると、テスト結果内の再生エラーを見つけるのに役立ちます。それらのエラーに基づいて、テスト スクリプトに必要な修正を加えることができます。

 **注:** メニュー ツリーを見ると、エラーが含まれているノードには、赤い "X" 印が付いています。

1. TrueLog メニュー ツリーで TrueLog を選択します。
2. **編集 > エラーを検索...** を選択します。 **エラーの検索** ダイアログ ボックスが開きます。
3. **検索範囲** リスト ボックスから、以下の項目のいずれかを選択します。
 - **開いているすべての TrueLog** - 開いているすべての TrueLog 内のエラーを検索します。
開いているすべての TrueLog オプションはデフォルトで選択されます。
 - **選択した TrueLog のみ** - アクティブな TrueLog 内のエラーのみを検索します。
4. **検索対象** グループ ボックスで、検索する項目の横にあるチェック ボックスをオンにします。
 - エラーを検索に含める場合は、**エラー** チェック ボックスをオンにします。
 - 警告メッセージを検索に含める場合は、**警告** チェック ボックスをオンにします。
 - 情報メッセージを検索に含める場合は、**情報** チェック ボックスをオンにします。
5. **検索方法** グループ ボックスで、エラーを検索する方法を指定します。
 - アクティブ ノードから検索を開始するには、**選択したノードから検索を開始する** オプション ボタンをクリックします。
 - 最初に検出された、エラーを含んでいるノードから検索を開始するには、**最初のエラーから検索を開始する** オプション ボタンをクリックします。
6. 一度に 1 つのエラーを検索しながら TrueLog 結果ファイル内を移動するには、**次を検索** をクリックします。
検出されたエラーに対応する SilkTest のテストケースにリンクすると、エラーの修正または情報の更新を行うことができます。

比較モードを有効にする

再生 TrueLog と対応する記録 TrueLog を比較して再生エラーを分析するには、比較モードを使用します。 **ファイルを開く** ダイアログ ボックスで **比較ビューで開く** チェック ボックスをオンにすると、TrueLog が自動的に比較モードで表示されます。 オフにすると、TrueLog はデフォルト ビューで表示されます。

 **注:** 比較モードでは、記録と再生の **ソース** ビューを、左右ではなく上下に配置できます。 **ソース** ビューを左右に並べて比較するには、**表示 > 左右に並べて比較** を選択します。

1. TrueLog メニュー ツリーで TrueLog を選択します。
2. 以下の手順の 1 つを実行します。
 - **比較モード** をクリックします。
 - **表示 > 比較モード** を選択します。



注: TrueLog の比較には、複数のエントリ ポイントやアプローチが利用可能です。

2つの TrueLog を比較する

2つの TrueLog を比較すると、同じテスト スクリプトによって生成された複数のテスト実行の過程をたどることで、再生エラーを識別できます。4Test スクリプトは、SilkTest 内で編集する必要があります。

1. **ファイル > TrueLog の追加** を選択します。 **ファイルを開く** ダイアログ ボックスが開きます。
2. 比較する最初の TrueLog を選択して、**開く** をクリックします。 TrueLog が TrueLog メニュー ツリーに表示されます。
3. **ファイル > TrueLog の追加** を選択します。 **ファイルを開く** ダイアログ ボックスが開きます。
4. 比較するもう 1 つの TrueLog を選択します。
5. **比較ビューで開く** チェック ボックスをオンにします。
6. **開く** をクリックします。 TrueLog メニュー ツリーで、2 つ目の TrueLog が最初の TrueLog の下に表示されます。
7. **編集 > TrueLog のステップ スルー...** を選択します。 **TrueLog のステップ スルー** ダイアログ ボックスが表示され、[SilkTest] ノード オプションが選択されています。
8. **次を検索** をクリックし、2 つの TrueLog ファイルを一度に 1 ノードごとを並べて移動します。

TrueLog を閉じる

TrueLog の分析が終わったら、TrueLog を閉じてメニュー ツリーから消すことができます。

1. TrueLog のメニュー ツリーで、閉じたい TrueLog を選択します。
2. **ファイル > 選択した TrueLog を削除** を選択します。

代替方法: 開いているすべての TrueLog を閉じるには、**ファイル > すべての TrueLog を削除** を選択します。

SilkTest のパフォーマンスの考慮事項


ビットマップやコントロールを TrueLog に記録すると、SilkTest のパフォーマンスに悪影響を及ぼすことがあります。ビットマップの取得や情報の記録を行うと TrueLog ファイルが大きくなるため、エラーとなったテストケースのみを記録 (TrueLog on Error) したい場合があります。その場合、必要に応じて TrueLog のオプションを調整して、その他のテストケースに対処することができます。

デバッグが必要な長時間の回帰テストを実行している場合、エラーとなったテストケースのビットマップのみを取得できます (TrueLog on Error)。このオプションは、**TrueLog Options** ダイアログ ボックスで設定します。

SilkTest Classic と Classic Agent で作業している場合、(**TrueLog Options** ダイアログ ボックスの **Actions Settings** タブで) 記録するように指定した各アクション タイプは、TrueLog メニュー ツリーで新しいノードになります。対象となるアクション タイプのみを記録することをお勧めします。

TrueLog を取り扱う場合のヒント

これらのヒントは、SilkTest Classic と Classic Agent で作業している場合にのみ有効です。

 **注:** TrueLog Explorer for SilkTest では、現在、4Test スクリプトのカスタマイズやアプリケーション プロトコル特有の機能はサポートされません。

「アクティブ ウィンドウ」ではなく「デスクトップ」のビットマップ取得の有効化

テスト対象のアプリケーションの他に別のアプリケーションやダイアログ ボックスが表示されていると思われる場合、アクティブ ウィンドウのみの画像ではなくデスクトップ全体の画像を取得することをお勧めします。これを行うには、**TrueLog Options** ダイアログ ボックスの **Enable Bitmap Capture** グループ ボックスで、**On error** をオンにして、**Desktop** をクリックします。エラーがテスト対象のアプリケーションではなくシステムの状態によって発生していると思われる場合は、このオプションの使用を検討してください。

表示されていないコントロール

TrueLog Explorer は、画像の取得時に表示されていないコントロールの画像を取得することはできません。TrueLog ビットマップに特定のアクションに関連するコントロールを表示させるには、画面をスクロールしてコントロールを表示する必要があります。

ビットマップに取得された SetText アクションおよび MultiText アクション

SetText アクションおよび SetMultiText アクションのビットマップを取得した場合、TrueLog Explorer は、赤い大きな文字をビットマップに重ね合わせて、それらのアクションに設定されたテキストを表示します。テキストは、テキストが入力されたコントロールとは関係なく、ビットマップの物理的な中心に配置されます。これは、取得されたビットマップにコントロールが表示されていない場合に、勘違いすることがあります。

[結果] ビューに表示できない文字が含まれている場合

結果 ビューのデータに表示できない文字が含まれている場合、そのデータは ASCII と 16 進数文字の両方で表示されます。この動作は、TrueLog Explorer の **オプション** ダイアログ ボックスを使用して無効にできます。TrueLog Explorer で **設定 > オプション...** を選択して、**表示** タブをクリックします。**データ形式** グループ ボックスのすべてのチェック ボックスをオフにします。

TrueLog Explorer のカスタマイズ

このセクションでは、TrueLog Explorer のツールバーのカスタマイズ機能や表示機能を使って、TrueLog Explorer を自分のニーズに合うよう変更する方法を説明します。


どのツールバーを表示するかを指定する

TrueLog Explorer インターフェイスにどのツールバーを表示するかをカスタマイズできます。

1. **設定 > カスタマイズ** を選択します。 **ツールバー** ページが開きます。
2. 表示したいツールバーの横のチェック ボックスをオンにします。
3. 省略可能: ツールチップ (マウスを重ねたときに表示される UI コントロールの説明) を有効化したい場合には、**ツールチップを表示** チェック ボックスをオンにします。
4. 省略可能: TrueLog Explorer の "クールな外見" を有効化したい場合には、**クールな外見** チェック ボックスをオンにします。クールな外見を指定すると、Windows 3.1 形式の影の付いたボタンが影のないボタンに置き換えられます。
5. **OK** をクリックします。
代替方法:**適用** をクリックして、選択した内容を即座に UI に適用します。

ツールバーのコマンド ボタンをカスタマイズする

特定のツールバーにどのコマンド ボタンを表示するかを定義することができます。

 **注:** メニュー バー ツールバーはカスタマイズできません。

1. **設定 > カスタマイズ** を選択します。 **ツールバー** ページが開きます。
2. **コマンド** タブをクリックします。
3. **カテゴリ** リスト ボックスで、コマンド ボタンをカスタマイズしたいツールバーを選択します。
4. **ボタン** ボックスに表示されているコマンドをクリックすると、**説明** ボックスでその説明を見ることができます。
5. ツールバーに追加したいコマンドを、**カテゴリ** リスト ボックスに表示されたそのツールバーの名前にドラッグします。
6. **OK** をクリックします。

索引

数字

4Test

オプションの設定 10

スクリプトのカスタマイズ 19

B

BR 6

C

CID 6

command line

running test methods 17

M

Main 関数 5

P

PID 6

S

setting options

TrueLog 9

TrueLog Explorer 9

SilkTest

エージェント 8

T

test method

running 16

test methods

running from command line 17

running from Eclipse 16

TL 6

TrueLog

Classic Agent のオプション 11

configuring 16

enabling 16

Open Agent のオプション 14

setting options 9

Silk4J で有効化する 15

SilkTest Classic で有効化する 8

エラーを検索する 18

サポート対象アプリケーション 6

制限事項 8

前提条件 8

閉じる 19

はじめに 4

比較する 19

開く 17

ヒント 19

TrueLog Explorer

configuring 16

enabling 16

setting options 9

インターフェイス 4

結果を表示する 11

スクリプトを使用して実行時に切り替える 10

TrueLog On Error

開く 17

TrueLog Options - Classic Agent

ダイアログ ボックス 11

TrueLog Options - Open Agent

ダイアログ ボックス 14

あ

[アクションの後] タブ 6

[アクションの前] タブ 6

アクティブ ウィンドウ 5

アプリケーション状態ノード 5

え

エージェント

Classic 8

SilkTest 8

開く 8

エラー

検索する 18

か

カスタマイズする

TrueLog Explorer 21

コマンド 21

ツールバー 21

完了ステータス 6

け

[結果] タブ 19

結果を表示する

TrueLog Explorer 11

こ

コマンド

カスタマイズする 21

[コントロール] タブ 6

さ

差分ビューア 8

サポート対象アプリケーション

TrueLog 6

し

状態復元 5
情報ペイン 6

す

スクリプト 5

せ

製品
概要 4
はじめに 4

そ

操作 5
[ソース] タブ 6
ソース ペイン 6

た

タブ
アクションの後 6
アクションの前 6
結果 19
コントロール 6
ソース 6
統計 6
呼び出し履歴 6

つ

ツールチップ 21
ツールバー
コマンドをカスタマイズする 21
表示する 21

て

テスト
分析する 18, 19

テスト計画 5

と

[統計] タブ 6

は

パースペクティブ
Explorer 4
ビューア 4
パフォーマンスの考慮事項 19

ひ

比較モード 18
ビットマップ
キャプチャ 19
ビューア パースペクティブ 4
開く
TrueLog 17
TrueLog On Error 17

へ

ペイン
情報 6
ソース 6

め

メニュー ツリー 5

も

モード
比較 18

よ

呼び出し履歴タブ 6